

埼玉県立がんセンター レジデント募集中！！

～先輩レジデントからのメッセージ～

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ①

消化器内科レジデント
稲本 林
(R3～)

消化器内科レジデントの稲本です。
私は市中病院の消化器内科で働いていましたが、以前より癌診療を専門に勉強したいと思っており、当院の研修を志望しました。
当科は言うまでもなく、癌の治療に特化しています。
ですから、がん薬物療法専門医が消化器内科には6名在籍しており、質の高い専門研修を受けることができます。
また、他院では治療が困難な方や治験を希望される方が受診されることも多いため、標準治療だけではなく、臨床試験や治験についても学ぶことができます。
実際に研修をしてみると、カンファレンスでは外国語のような言語が飛び交っており、最初こそ頭の中は「？」でいっぱいでしたが、日ごとに理解できるwordが増えてきたような気がします。
私自身はまだまだ未熟ではありますが、親身に指導してくださる先生方に囲まれて有意義な毎日を送っています。
当科は、癌治療に専念できる環境であり、自分の興味のある分野に関しては掘り下げて学べる環境にあると感じています。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ②

乳腺外科レジデント
小寺 麻加
(R5～)

乳腺外科レジデントの小寺です。私は大学病院で乳腺外科として勤務していました。多くの乳癌診療経験を積み、また今まで自施設では学ぶことができなかった分野についても研修したいと考え、当院での研修を志望しました。
乳癌治療は手術だけでなく、薬物療法や放射線治療、緩和ケアに至るまで多岐にわたり、また近年ではがんゲノム医療の登場もあり、さらに治療の幅が広がっています。がんセンターでは各分野の専門家から学べるという点で、とても良い環境だと思います。当院では乳腺内科という乳癌薬物療法を専門とする診療科が独立しており、外科と連携しながら診療を行っています。(乳腺内科という診療科があるのは珍しいかと思います。) 乳腺外科の研修というと手術が中心となる施設も多いですが、当院では乳腺内科をはじめ他の診療科でも研修できることが大きなメリットかと思っています。外科領域においても症例は多く、また乳房再建も形成外科と連携し積極的に行っており、沢山の症例を経験できると思います。
私はまだ主に外科を中心に研修中ですが、今後は遺伝科や病理診断科、緩和ケアなど学びたいことがたくさんあります。先生方に熱心にご指導いただきながら、日々充実した研修を送らせていただいています。 興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ③

消化器外科レジデント
柿澤 奈緒
(R5～)

2023年4月に大腸外科のレジデント研修を開始いたしました。

約5か月経過したところですが、当院は低位の直腸癌や多臓器浸潤癌の症例が大変多いと感じています。

剥離層の美しいロボット手術や、他臓器合併切除に参加することができ、骨盤内の解剖を改めて勉強しなおしています。

内視鏡外科技術認定だけでなく、専門的な大腸外科を志している医師に、特にお勧めします。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ④



消化器外科レジデント
藤沼 八月
(R5～)

私は卒後10年目で埼玉県立がんセンターの消化器外科レジデントとして勤務しています。肝胆膵外科専攻ですが、3年コースで応募し、消化器外科各科(胃外科、食道外科、大腸外科、肝胆膵外科)を3カ月ずつローテーションしています。現在は胃外科を研修した後に食道外科で研修をしています。

私は防衛医大卒で病院で常勤として勤務できていたのは初期研修を含めた5-6年程度でしたので、1年間各科をローテーションすることによりまた新たに消化器外科医として知識や技術を習得することができています。また、カンサーボードなどで他科の先生方とのカンファレンスを通じ、放射線や化学療法など癌治療に関する知識を幅広く学ぶことができます。

また、当院は緊急手術も少なく、自己研鑽をできる時間が多く持てるのも特徴かと思います。その間は手術の復習予習、学術活動等に十分に時間を割けるためその点においても有意義な研修ができると思います。

興味があれば是非とも見学にいらしてください。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑤



消化器外科レジデント
野村 悟己
(R5～)

卒後7年目で当院消化器外科レジデントの野村です。私は、岡山県の倉敷中央病院で後期研修含め4年間研修を積んでから当院に赴任しました。

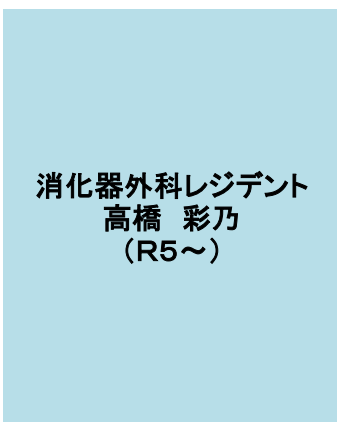
倉敷で肝胆膵高難度手術並びに腹腔鏡下肝切除・膵切除の研鑽を開始していたため、肝胆膵外科2年研修プログラムに応募しました。

当院の肝胆膵外科は、肝胆膵高度技能専門医及び内視鏡技術認定医の資格を有するスタッフの指導の下、多くの手術の執刀機会が与えられます。

また、毎週行われているカンファレンスで治療方針の決定など学ぶ機会が豊富です。私も、肝胆膵高度技能専門医ならびに内視鏡技術認定医取得に向けて日々研鑽を行っています。

同じ目標を持っている方は是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑥



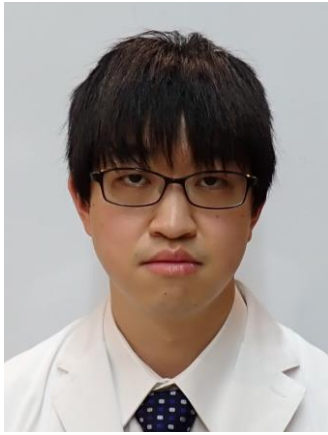
消化器外科レジデント
高橋 彩乃
(R5～)

当院消化器外科は食道・胃・大腸・肝胆膵の4つのグループからなり、研修は1年間のローテーション後に2年目から専門科に進む3年間のコースと、1-2年間の専門研修を行うコースの2つがあります。これまで市中病院で勤務していたこともあり、まずはそれぞれのグループで専門的に癌診療を学びたいと思い、前者のコースでお世話になっています。

カンファレンスでの治療方針検討や、実際の手術および手術ビデオの振り返り等、多くの指導を受けることができ、とても勉強になります。

また、一般病院と異なり、緊急手術等は少ないため、癌診療について集中して勉強・研究を行うことが出来ます。当施設での研修に興味がある方は是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑦



歯科口腔外科レジデント
丸田 上
(R5～)

埼玉県立がんセンター口腔外科レジデントの丸田です。私は都内の病院で2年間の研修をした後、東京医科歯科大学大学院で口腔外科診療を行っておりました。顎変形症の治療が大部分を占めており癌治療は全くと言っていいほど触れたことがなかったため、このままでは全く癌が診られないことを危惧し当院レジデントに応募させて頂きました。当院はその名の通り、ほとんどが癌患者のため勉強の毎日であり口腔がんの専門的な知識や技術を習得できるため口腔外科医として成長できる恵まれた環境であると思います。

また、当科は口腔がん治療だけではなく周術期口腔ケアや他科からの口腔内診察依頼があります。口腔領域だけではなく全身の各領域のがん患者にも接するため他科の先生と連携する機会も多く、これからがん患者の治療に携わる先生方にとって貴重な経験になると思います。最初は右も左も分からない状態でしたが、上級医やレジデントの先輩が丁寧に指導してくれるため成長が実感できる充実した毎日を送れています。口腔がんについて興味がある方にとって当院はいくらでも学べる環境があるため、少しでも気になったら是非一度見学にいらしてください。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑧



消化器外科レジデント
塩見 真一郎
(R6～)

令和6年4月から、食道外科チームでレジデントとし勤務をさせていただくことになりました、塩見真一郎です。私は東京都立多摩総合医療センターで3年間の外科後期研修、1年間の東京大学医学部付属病院での臨床経験を積んだ後、東京大学大学院消化管外科学講座で4年間食道癌のリンパ流に関わる研究を行わせて頂きました。その中で食道癌の病態の面白さ、手術および周術期管理の奥深さに興味をもち、埼玉県立がんセンターでの修練を希望させて頂きました。当院では年間60例程度の食道癌の手術症例があり、全ての手術に関わらせて頂くことが出来ます。手術手技はもちろんのこと、術前カンファレンスでの検討内容や周術期管理の考え方など、基本的なところから非常に丁寧に教えて頂き、とても充実した毎日を送っております。看護師さんをはじめメディカルの皆様も、日ごろから非常に親身に対応してくださり、ありがたい勤務環境です。また、当院では豊富な症例数に基づいて、臨床的ないし基礎的な側面から研究活動を行うことも可能です。他科の先生方も非常に研究に対して親身に協力して下さいますし、研究や論文執筆にかかる費用も病院からご支援頂くことができます。食道癌に興味のある若手消化器外科医の皆様、ぜひ埼玉県立がんセンターと一緒に働きましょう！

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑨

消化器外科レジデント
石井 翔太
(R6～)

私は卒後6年目で当院消化器外科レジデントとして勤務しております。新潟県の新潟市民病院で初期研修・後期研修を積んだ後に当院へ赴任しました。

3年コースでは基本的に1年間の各チームローテーション後に専門科へ進みますが、現在は胃外科を中心に研修しております。当科では手術中の指導はもちろん、術後のビデオカンファなどを通じて手術を体系的に勉強することができ、チーム一丸となって技術認定取得を目指す環境があります。ロボット手術の修練環境も充実しており、シミュレーターや鶏肉を用いた練習に早い段階から取り組むことも可能です。また、他科とのカンファレンスや検討会を通じて、癌治療の知識を幅広く習得することができます。

当院での研修に興味を持たれた先生はぜひ一度見学にいらしてください。お待ちしております。

先輩レジデントから皆さんへのメッセージ⑩



歯科口腔外科レジデント
吉田 国弘
(R6～)

埼玉県立がんセンター歯科口腔外科レジデントの吉田です。私は広島県の福山市民病院で研修を受けた後、岡山大学病院口腔外科で4年間、臨床と研究に従事していました。口腔外科診療に携わるうち、もともと興味のあった癌治療に対する専門的な知識や技術を習得したいと思うようになり、当院での研修を志望しました。現在当科は常勤医3名、レジデント2名、非常勤医2名(補綴科)の体制で、年間120例以上の口腔癌の治療を行っています。病院の性質上、症例の大部分は悪性腫瘍が占めており、すべての手術と病棟管理に参加するため、口腔癌治療を徹底的に学ぶことができます。

また、当科は口腔癌の治療だけでなく、周術期口腔機能管理も行っています。術前の口腔内診察に加え、化学療法や放射線治療、骨髄移植前の口腔ケア、口腔粘膜障害の対応にも携わっており、口腔領域以外の悪性腫瘍の患者様の治療に関わる機会も豊富にあります。様々な領域から得られる経験も、これから癌治療に携わる口腔外科医にとって非常に貴重な経験になると思います。口腔癌治療に興味がある口腔外科医は是非一度、当院へ見学にいらしてください。